

たより

〒037-0305
青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8
TEL : 0173-57-9022
E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp
HP : <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/gizyutu/>

4月1日付け人事異動 着任のご挨拶

4月1日付け人事異動により、森林技術・支援センター所長を拝命いたしました澤藤です。当センターでの勤務は初めてであり、また青森県内での勤務も22年ぶりとなりますが、よろしくお願ひします。

さて、当センターにおいては、これまで効率的な森林管理及び育成技術の確立に向け、歴代の諸先輩方が数多くの技術開発課題に取り組まれ、多大な成果を上げてこられました。これらの取組は、民有林行政に対する重要な技術支援として大きく貢献しており、心より感謝を申し上げます。

今後、人工林を中心に本格的な利用期を迎える中、伐採から再生林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の確立が求められています。このため、当センターでは現在、以下の技術開発課題に取り組んでいます。

- (1) 早生樹（ユリノキ）の成長特性や国内外の需給実態を調査し、造林樹種としての利用可能性を評価・検証
- (2) ヒバ天然林における林分状況に応じた施業の確立に向け、択伐・間伐後の施業効果を検証するための継続的な成長量調査
- (3) 超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の成長促進効果及び植栽適地の検証、併せて再生林の低コスト化に向けた実用化の可能性の検証

これらの課題については、各試験地を管轄する森林管理署等の職員をはじめ、各県関係機関、岩手大学、森林総合研究所東北支所、東北育種場などの研究機関と連携・協力しながら着実に調査を進めてまいります。

引き続き、技術開発の成果を国有林の現場に定着させるとともに、民有林への技術支援を通じて、持続的な林業・木材産業の発展に貢献してまいります。



【所長 澤藤 和利】

令和8年度 重点技術開発課題の進捗と今後の展開

【課題1】早生樹（ユリノキ）の更新特性等と需給実態について

東北森林管理局では、平成28年度から令和2年度にかけて早生樹である「ユリノキ」の成長特性等の検証を行い、東北地方の環境下においても良好な成長を示すことを確認しました。

一方で、東北地方への本格的な導入・普及に向けては、さらなる多角的な検証が必要であることも明確になりました。

そこで令和5年度からは、新たな技術開発課題として「更新特性」「生育特性」のさらなる深掘りに加え、木材流通を見据えた「需給実態」の検証を実施しています。

今後も実証データを蓄積し、東北エリアにおける新たな選択枝としての普及を目指します。

(森林技術普及専門官 成田)



(萌芽調査試験地)



(発芽試験)

【課題2】ヒバ天然林施業の調査データ収集と解析

東北森林管理局では、平成7年度から令和6年度までの30年間にわたり取り組んできたヒバの試験において、伐採後約14年で伐採前までの水準まで蓄積が回復したという結果が得られました。

一方で、現在は周囲の広葉樹が被圧し、ヒバの稚幼樹が少ないという新たな課題も明確になりました。そこで今後、広葉樹を含めた上層木の伐採を実施し、林内の光環境を改善することで、ヒバの確実な更新と成長を促進させる必要があると考えられます。

本課題は、次世代へ豊かなヒバ林を繋ぐため、今後20年間にわたり長期的なデータの収集と解析を継続して行います。長年の蓄積データを基に、管内特有の森林資源であるヒバの持続可能な管理技術の確立を目指します。

(業務係長 神)



(ヒバ天然林試験地)



(ヒバ稚樹調査)

【課題3】超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用

令和11年度までの5カ年で造林の省力化・低コスト化を目指す、全国横断の技術開発課題で、成長初期に栄養を要するエリートツリー等コンテナ苗に対し、育苗期に超緩効性肥料を施した苗を用いることで、下刈回数の縮減や植栽適地への効果を検証します。

令和7年度は「山形森林管理署最上支署」管内に試験地を設定し、初期状態の計測を完了しました。今年度は「秋田森林管理署」及び「三八上北森林管理署」管内に新たな試験地を設定する予定です。管内の試験地でデータを蓄積し、次世代造林モデルの普及を目指します。

(森林技術普及専門官 成田)



(特定苗木)



(選苗作業)